



四国の風景街道通信

四国風景街道協議会

【平成28年度 四国風景街道交流会】を開催しました

●とき 2016.11.26(土) ●ところ 高知県安芸市内

概要

今回の交流会は、四国内で活動されているパートナーシップの方々及び行政関係者、一般参加者あわせて総勢60名にて、以下の2部構成にて開催しました。

- ・第1部 現地見学 安芸市役所→道の駅大山→八流(赤野休憩所)→野良時計
- ・第2部 活動紹介 NPO日本風景街道コミュニティ中四国担当理事 河原八郎氏
- 基調講演 湖水街道推進会議(鳥取県・島根県)座長 三代隆司氏
- 演題『人間文化の原風景～ご縁をつなぐ神仏の通ひ路～』の取り組み
- 事例紹介 歴史と文化にふれる歩くみちづくり懇話会(安芸市) 松本孝氏
- 事例紹介 ルートプレス21 発行人兼編集長 松本順子氏



安芸市 横山市長 挨拶

現地見学

現地見学では、開催地の日本風景街道登録ルート「土居廊中」の歴史と文化にふれる歩くみちづくり懇話会の松本氏に、幕末の頃に描かれた絵図を基に、昔と今の道や風景の移り変わりについて説明を受けました。また、海岸線の美しい風景をより良く眺められるようにするための取り組みについても説明を受けました。

◆安芸市役所～道の駅大山

道の駅大山へ向かう車中では、古い絵図に描かれていない橋が現在は架橋されていることや、一世代前の橋の痕跡(親柱)、大山岬付近の旧国道とさらにその前の道、古い絵図に描かれている山道などについて説明を受けました。

◆道の駅大山

道の駅大山の駐車場では、伊尾木漁港の幕末から現在までの整備の変遷について、昔の写真を提示していただきながら現地見学を行いました。

また、国道55号の車線を二分して立っている『ナギの木』については、古くから言い伝えのある大事な木であるため、地域住民の要望によって、木を残して道路が造られたとの説明を受けました。

◆道の駅大山～八流(赤野休憩所)

八流(赤野休憩所)へ向う車中では、幕末の頃に描かれた絵図で安芸川と伊尾木川が河口で合流していたこと、その場所にはかつて港が存在していたこと、安芸市街の道路元標を見ながら昔と今の道や風景の移り変わりについて説明を受けました。

◆八流(赤野休憩所)～野良時計

八流(赤野休憩所)では、国道を通行する車窓から美しい琴ヶ浜の眺望をより良くするため、国道脇に設置されていた投棄防止フェンスを国道下に移設した取り組みや、国道の海沿いに建てられていた電柱を地域の要望により山側へ移設した取り組みを紹介いただきました。



歴史と文化にふれる歩くみちづくり懇話会松本氏による説明の様子



道の駅大山の駐車場での見学状況



八流(赤野休憩所)での見学状況



琴ヶ浜の海岸線

活動紹介

平成28年度

NPO日本風景街道コミュニティ 河原理事より、日本風景街道コミュニティの活動についてご紹介いただきました。

活動内容については、「日本風景街道だより」による全国の事例紹介、全国の関係者が集まり、資金難や後継者不足等の問題について議論する「日本風景街道大学」の開催、風景街道自治体パートナーとして、地域活動の支援・連携、風景街道の発展・充実を目的とする「日本風景街道自治体連絡会」の設置、全国レベルで風景街道活動に関わる知恵と技術の交流・収集、研究、蓄積・伝承を目的とする「みちのコミュニティシンクタンク」の設置等をご説明いただきました。

基調講演

『人間文化の原風景～ご縁をつなぐ神仏の通ひ路～』と題して、湖水街道推進会議の三代座長に基調講演をいただきました。

「ご縁をつなぐ神仏の通ひ路」は、宍道湖・中海・大山圏域の日本風景街道登録ルートで、出雲神仏霊場20社寺を結んだ320km程のルートと宍道湖・中海の水辺をつなぐ120km程のルートの2つのルートで構成され、26の民間団体と道路管理者で運営されており、活動エリアにおける美しい風景の写真をまじえながらご説明いただきました。

次に、湖水街道推進会議における活動内容として、レーク街道カフェの取り組みや、圏域の情報発信に関する工夫、また、ビュースポット、ルートサインの整備について、大変興味深いご説明をいただきました。

最後に、これからの活動として、今までは「神話」にクローズアップして考えていたが、場所や時代など、さらなる風景資源の開発が必要だと感じており、これらをテーマとした既存の団体とどうつながって活動していくか、また、ルート登録より10年が経過し、活動を引き継いでもらえる後継者についても今後の課題であるのご意見をいただきました。

また、講演後には会場より、目的地を探すマップコードの取り組みの今後の展開、活動主体の世代交代、活動資金の調達などの質問があり、会場と活発な意見交換が行われました。



事例紹介

『歩いて地域の良さを見つけよう～景観の昔と今を知り、これからにつなげる～』と題して、開催地の日本風景街道登録ルート「土居廊中」の歴史と文化にふれる歩くみちづくり懇話会 松本氏より、安芸市における昔と今の景観や道路の移り変わり、地元小学校で行っているフィールドワークの事例をご紹介いただきました。

安芸市内の昔と今については、江戸時代から現在へとその道を通るものにより、道に変遷があり、山越えの道から平坦で幅が広い道に変化していく様子などを、貴重な古地図や当時の写真をもとにご説明いただきました。

地元、土居小学校で行っているフィールドワークについては、子供達に地域の歴史を伝えるとともに、古い写真を手掛かりに、現在その場所がどうなっているか調べに出かけることを通して、子どもたちに地域の歴史を伝える取り組みについてご説明いただきました。



事例紹介

道21世紀新聞「ルートプレス21」の松本編集長より、ルートプレス発行の経緯や動機、読者の反応、道の駅と日本風景街道の連携について事例紹介をいただきました。

ルートプレスは、平成16年10月に発生した新潟県中越地震の際、道の駅が避難所になるなど、救援・復旧の防災拠点となることを伝えたいとの思いが発行の大きなきっかけとなり、日本風景街道の制度が動き始めた平成18年以降は、日本風景街道の記事を掲載しているのご説明をいただきました。

現在、道の駅は全国1,107箇所が登録され、地域活性化に貢献しており、さらなる活性化のため、道の駅と日本風景街道の連携に努めていきたいとご説明いただきました。



おわりに

本交流会は、全国事例やサポート体制の活動紹介、優れた先進的な取り組みの基調講演、景観の変遷や眺望をより良くしようとする安芸地域の取り組み紹介、道の駅の新聞発行の経緯や風景街道との連携の事例紹介、活発な意見交換など長時間となりましたが、たいへん熱意のある有意義な交流会となりました。事務局としましても、今後も、これまでの四国風景街道の取り組みを継続しながら、益々発展・充実できるよう努めてまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

このたびは、遠方にもかかわらず、多数の方々にご参加頂けたこと御礼申し上げます。あわせて、地域の皆様、講師の皆様ご協力ありがとうございました。



お問い合わせ

●四国風景街道協議会事務局

国土交通省 四国地方整備局 道路部 地域道路課内

●TEL087-811-8323

●FAX087-811-8421

●mail skr-shikoku-fukeikaido@mlit.go.jp